

## 有馬・野川エリア

たちばなの里・野川コース 約4.3km

1.9km 0.9km 1.6km

能満寺バス停 上野川橋 野川第2公園 和野川橋 和野川橋下

コース区間距離

### 歴史と伝説の地を歩く

能満寺参道脇の石造物群を見ながら、影向寺の塔頭(たっちゅう)である能満寺の山門をくぐる。名刹(めいさつ)影向寺をはじめ、野川神社、巡拝塔、西蔵寺などを探訪し、上野川橋で矢上川を渡る。野川小学校を右に見て、道なりに、なだらかな坂を登って野川台へ。野川第2公園付近から権六谷戸を展望する。台地から坂を下り、緑地が狭く谷戸を縦断し、再び台地上がり、尾根道に合流。尾根道を左折し、ややあって右折、急坂を下って、和野川橋に至り、すぐに県道久末麓沼線にぶつかる。ここでゴール。



野川第2公園から権六谷戸を眺望

野川老人いごいの家

落武者の一行がたぐれ住んでいたが、道中に襲われ1人を強して討死した。助かった武士は権六と名を変え、死者を弔いながら余生を送ったという。



権六谷戸の庚申塔



庚申塔、之には「源田幸命」古には「御前神社」の奥札がある



西蔵寺の市内最古の庚申塔

天平12年(740)、聖武天皇の勅命で行基菩薩が創建したと伝える古刹。影内石の次にたまった水が薬病に効能あるとして信仰された。



能満寺石造物群

### 宮前区内にある石造物の

## 豆知識

- 霊柩(いたび)** 鎌倉時代に発生したもので、死者の供養に用いられた宝篋(きょう)・日塔や五輪塔より手彫りであることから武士たちに好まれた。有馬の権王寺にある板碑は寛武4(1337)年銘が刻まれ、区内174基のうち最大のもの。
- 馬(ばとう)** 馬は農耕をはじめ貨物の運搬に大きな働きをした。馬が亡くなると、その馬が日ごろ馴染(なじ)んだ場所(石塔)を建てて祀(まつ)られた。俵の額に馬の頭を彫ったものや、「馬頭観音」と記したものが、区内には35基が確認されている。
- 地神(じじん)** 暮(き)・暮分(きぶん)に近い成(つちのえ)の日は土を動かさない禁忌の習慣があった。この日は農家の神である地神様に農作を祈願する事が行われた。区内には8基ある。
- 地蔵等(じざうらう)** 子どもの成長や村の安全を見守ると言う。区内には子育て地蔵もある。
- 二十三夜(にじふさん)** 二十三夜(にじふさん)の月の出を待ち、五穀豊饒(ごこくほうねう)や子孫繁栄(しよんはんえい)を祈願した。区内には3基があるが、いずれも「二十三夜」の文字が刻まれている。

- 霊柩(いたび)** 「みちしるべ」とも呼ばれ、道案内に用いられたものである。商人の往来が多くなる元禄時代から増え始めるが、神社参りや教育が盛んになる文化文政時代には、庚申塔や馬頭観音なども兼ねたものが現れる。
- 巡拝(じゅんぱい)** 無事、送札を終えたあと記念として建てたもので、その多くは西国・秩父・近畿の計百ヶ所の観音霊場送札のものである。遠くは、出羽三山・四国八十八ヶ所の記念塔もある。
- 供養塔(くやうた)** 有馬の長壽寺境内にある。供養塔は宮前区の農家生産組合が建てたもので、毎年、3月の彼岸過ぎに供養祭を行っている。花供養塔は、泉福寺境内に馬場花生産組合が建てたものである。毎年、8月17日に花供養が行われる。
- 道祖神(どうそじん)** 道の要害や村の入口などに建てられるもので道中の安全や、村内を悪魔から守る神であった。区内の平には「土祖大神」と刻んだ道祖神があり、1月15日には、この前で「どんと祭り」が行われる。
- 豊稔(とかげそん)** 豊稔が盛んな地方で信仰された豊稔の神。県下一円では、天保5年に始まった日米修好通商条約後、外国に輸出する代表的な商品として豊稔が盛んになった。宮前区では明治時代から大正時代にかけて盛んになった。豊稔祭は恐らく、土橋神社に1基建てられている。